

「和而不同」、「和して同ぜず」は、第4代校長、原巳冬先生が常に語られていた至言の一つである。「論語・子路」にある言葉で、孔子が「子曰く、君子は和して同ぜず、小人は同じて和せず」と言ったのに基づく。君子は人と協調するが、安易に同調したり雷同したりすることはない。主体的に人とつき合うべきであるということだ。

われわれ27回生は、1969年（昭和44年）に、附設中学校が設立され、中高6ヵ年一貫教育が発足して以来、唯一、中学入学組と高校入学組が融合しなかった学年である。今となっては知りようもないが、中学では5回生とあって、学校側にもまだ、中高一貫教育の迷いがあったのだろうか。

他回生からは奇異にみられるだろうが、AB組とCD組は、つい最近まで、別々に同期会をやってきた。だが、ここ数年、とくに、2010年に東京支部総会で幹事学年を務めてから、東京では、ABCDの垣根はなくなった。折につけて集まっては、語りあい、親睦を深めている。

思考廻廊のパネルが掲げられた後の2013年の正月4日、福岡で初の全学年同期会が開かれた。来賓の恩師への感謝状贈呈の最後に読み上げられた言葉は、「中学5回生一同」から「27回生一同」に換わった。卒業4半世紀の風雪を経て、新たな出会いを得たわれわれ27回生は、「和而不同」の言葉をかみしめながら、旧交と「新交」を温めていく。

2013年 27回生有志